

# 女性からのひとこと

(株)北杜地質センター  
藤村 聡子



東日本大震災からまもなく1年を迎えようとしています。

あの大地震の時、私は自分のデスクで納期の迫った報告書の入力作業をしていました。数日前にも少し大きめの地震がありましたので、その余震だろうぐらいに思っていたところ、だんだん揺れは強くなり、私はその場にしゃがみこんでしばらく動けず茫然としてしまいました。地震発生後すぐに停電になりましたので、ラジオで状況を把握するまでの数分間、入力中だったデータがとんでしまったことへのショックの方が大きかったことを覚えています(結果、データは残っていたので大丈夫でしたが)。

また、私の親戚・友人で沿岸部に住んでいる人もおりましたので、なかなか連絡がつかず焦りましたが、幸いにも全員無事が確認できました。

当社は内陸部にあるため建物への被害はなく、停電と停電に伴う断水があったくらいで、停電も翌日夕方には復旧しましたので、業務に大きな支障がでることもなく



今日まで頑張っております。

普段の地質調査に加え被災地の沿岸部での復興のための地質調査もあるため例年よりも忙しい一年となりましたが、これからもひとつひとつ丁寧に仕事に励んでいきたいと思っております。

さて、私は社内で現業事務を担当しており4年目になります。仕事内容といえば、現場から毎日あがってくる柱状図のデータや写真の整理、報告書の入力・製本作業などです。また最近では、電子納品やテクリスの作成、時には電子入札の作業も頼まれるようになりました。

電子納品について勉強をしている中で、CALS/EC インストラクター(RCI)という資格があることを知り、社長からは何かひとつでも資格試験にチャレンジするように常々言われておりましたので、挑戦してみることにしました。RCIの受験資格が「20歳以上」これひとつだけだったのも受けてみようと思ったきっかけといっても過言ではありません。

今回はRCIを取得するまでの珍道中を記してみたいと思います。

## 〈受験を決めてから〉

受験してみようと思ったのは昨年5月中旬でした。しかしその時はもうすでに締め切ったあとでしたので、1年間は頭の片隅に残したまま過ごし、今年受験しました。

試験範囲は市販されているガイドブックの中からのみです。“なんだ簡単じゃないか”と初めは思いましたが、実際勉強

.....

していくと、電子入札・電子納品の部分はなんとなくわかるのですが、CALS/ECのこれまでの流れや工事の分野などはまったくわかりません。軽い考えで受験を決めてしまった自分を一瞬悔やみました。でもあきらめるわけにはいきません。

仕事の合間や休日などにゆっくりと時間をかけて過去問とガイドブックとをにらめっこしながら勉強を進めていきました。そしてなんとか試験直前には、過去問で満点とはいいませんがそこそこの点数がとれるまでにはできるようになっていました。あとは本番でどれだけできるかです。

#### 〈受験日当日〉

そして、いざ受験当日です。私は緊張するとよく腹痛を起こすのですが、その腹痛が当日の朝に襲ってきたのです。最近はそのようなことはなかったのに。試験というものが久しぶりだったからかもしれません。幸い余裕を持って早い時間の新幹線を予約していましたので、時間を変更してギリギリまで自宅で安静にして、飲まず食わずのまま受験会場の東京へと向かいました。

実際に会場につくと落ち着いてきたのか腹痛もおさまって、無事に受験することができました。なんとか試験時間中に全問終えることはでき、なんとか勉強の成果は出せたように思いました。しかしこれが本来の体調だったら、もう少し粘れたのかなあとの思いもありました。

#### 〈合格してから〉

結果は2ヶ月後の9月末でした。その数日前に正答が公開されたのですが、思ったほどとれていなかったのも、少しドキドキしていました。ですので、ホームページで番号を見つけたときはほっとし、そして合格証が届いたことで、また一つ資格をとることができたと実感しました。会社にも無事に合格を報告することができ、少しは貢献できるのではと思っています。

CALS/ECは生き物というか、日々変わりつつある分野だと考えています。私自身、合格したことにおごられることなく勉強をつづけていきたいと思っています。